

Information

| イベント情報 |

9月	9/30(火) 10:00~11:30	2026年度日本郵便年賀寄付金助成金説明会 町田市役所2階 市民協働おうえんルーム ● 担当者による年賀寄付金説明、質疑応答、個別相談(希望者) ✓ 応募を検討している方 ✓ 助成金について知りたい、申請書の書き方のコツを知りたい方
10月	10/2(木) 10:00~17:00	まちカフェ!オープンデー 町田市役所2階 市民協働おうえんルーム ● まちカフェ!準備なんでも相談会 企画の打ち合わせ、準備、チラシ作成、ラミネート作業等、まちカフェ!に向けた準備をみんなで進めましょう。
	Pickup Event 10/5(日) 10:00~12:00	コーディネーター研究会 特別セミナー 「地域づくりニューリーダー論 ～だれもが地域づくりの仲間となるために」 町田市民ホール 第4会議室 ● ゲスト 石井大一朗氏 (宇都宮大学コミュニティデザイン学科教授/「町田市における地域コミュニティの未来に関する共同研究」研究委員会委員)
10/17(金)	①10:00~12:00 ②13:00~15:00	まちカフェ!ワンディおうえん隊「チラシ発送作業」 町田市役所2階 市民協働おうえんルーム ● まちカフェ!のチラシを市の幼稚園・保育園・小学校へ配布する準備作業です。参加いただける方は右記ワンディおうえん隊フォームからお申し込みください。
10/24(金)	14:00~17:00 交流会あり	まちづくりカレッジ最終発表会 kichika(キチカ) (相模原市南区 相模大野3-23-2 パークハイム渋谷B1) ● 連続講座まちづくりカレッジ組織づくりコース、ナリワイ起業コースの講座生が事業計画について最終発表を行います。どなたでもご参加いただけます。

これから開催するイベント一覧です。
詳細やお申し込み方法は、サポートオフィスHP内の
「イベント」ページをご確認ください。



Pickup Event

コーディネーター研究会 特別セミナー 地域づくり ニューリーダー論

～だれもが地域づくりの仲間となるために
地域のつなぎ役となる「コーディネーター」に必要なリテラシーを地域づくりのニューリーダー論としてお話しいただきます。また地域づくりのコーディネーターが交流を深める機会も用意しています。

本講座の対象の方

- 地域で人をつなぐ役割をしている方
- 地域で人をつなぐ役割に関心のある方
- 人をつなぐ役割(コーディネーター)を職業としている方
- 他分野のコーディネーターとつながりたい方

詳細・お申し込みは
イベントページより



まちづくりのコミュニケーション誌 サポートオフィス通信

一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス 発行

2025 SEP vol.61



応づま
援くち
基りだ
金 MACHIDA CHALLENGE FUND

▲助成決定団体の活動や昨年度に実施した報告会等の様子

Now | 近況報告 |

「2025年度まちづくり応援基金」に 9件の活動への助成が決まりました!

2024度よりスタートした「まちづくり応援基金」による助成事業、今年度の助成対象が決定しました。本事業には、11件の応募があり9件の活動が助成対象として採択されました。

7月2日のプレゼンテーション審査、7月9日の選考会議と2日間にわたって実施された選考委員会では、公募により決定した5名の選考委員の皆さんが様々な角度から評価し、総合的に助成対象を決定しました。

今後は中間交流会、最終報告会など助成団体同士の交流の場の開催や、企画実施に向けた支援も行っています。

2025年助成対象 ※順不同

清住平WindMusic / 高齢者共生の会
スヌーズレンブラックライトルームを普及する会 / 萩原恵美子
町田いのちの授業研究会助産師サークル / 町田emoプロジェクト
丸山子ども会 / もこもこフェスティバル / ゆるっとこども未来まちだ



選考委員会で評価された活動の良かった点

- これまでの実績や専門性を活かしたうえで、新しい対象やエリアで活動を広げようとする取り組みは、プログラムの趣旨である「新しいチャレンジ」に合致している。
- 活動を通じて実現したい地域や社会像、協働したい組織が明確で説得力がある。



選考委員からの全体的な感想

- 町田にこんなに多彩な活動をされている方がいらっしゃることにわくわくした。
- 活動のジャンル、活動の対象も多様で、また応募者も幅広い年齢層の方が参加していてよかったです。



各助成団体の取り組みについては、
サポートオフィス学生インターンによる
インタビュー記事を順次公開します!

インタビュー記事はこちらをご覧ください



町田市地域活動サポートオフィスでは、地域活動に関する悩みや相談を受け付けています。電話やメール、または直接来所して相談することができます。



MAIL info@machida-support.or.jp

TEL 042-785-4871

月~金 午前9時から午後6時 (毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

最新情報はホームページや各種SNSでも発信しております。



友だち登録募集中

<https://machida-support.or.jp>



Topics

| 特集 |

事例から学ぶ！協働を進めるコツ 町内会・自治会、地区協議会と 市民活動団体の協働事例

市内には、地域に根差し、地域の暮らしを支える町内会・自治会、地区協議会といった地域組織のほかに、同じ関心事や専門性を持ったメンバーが集まり活動を進める市民活動団体など、多様な団体や組織が地域づくりに取り組んでいます。今後は、組織の枠を超えて、お互いの強みを活かして活動をすすめることがますます重要になってきます。今回は、町内会・自治会や地区協議会といった地域の組織と地域で活動する団体が互いの強みを持ち寄ってWIN-WINの活動を進めている2つの地域でインバウンドを実施し、協働を進めるためのコツをまとめました。

case study
一例 01

防災から広がる、 顔の見える応援関係



田代敏行会長・金井玲奈さん▶

玉川学園町内会×一般社団法人OMUSUBI

協働することになったきっかけは？

金井さん：子どもを地域全体で見守ってもらいたいと思い、町内会との関わりを持つと決めました。田代会長と初めてお会いしたのは、豚汁づくりのイベントに顔を出した時です。

田代会長：金井さんと何度もイベントでお会いするうちに、「町内会のコミュニティ部のサポーターをお願いしたい」と声をかけました。サポーターには、イベントのお手伝いやチラシづくりなどを協力していただいている。そのうちに、OMUSUBIの活動や子どもたちへの想いを聞かせていただくようになりました。

具体的にどんな協働をしていますか？

金井さん：OMUSUBIの活動で使う炊き出しセット(調理器具)を地域の方にも使ってもらえるように、合同防災訓練を行いました。また、町内会の方々に力を貸してもらい、活動場所のなかよし公園に倉庫を設置していただき、


▲炊き出しセット(調理器具)は毎月1回の活動で使用。使い方の練習にもなっています。

炊き出しセット(調理器具)の保管などに使用しています。

田代会長：少子化や地域の孤独など課題は耳にはしていましたが、実際にOMUSUBIの活動に何度か足を運んでみると、こんなにたくさんの人が地域で集まり、協力し合って活動していることに感銘をうけました。金銭的には厳しいという現状も聞き、町内会からも資金支援を行いました。

協働することでよかったと感じることはありますか？

金井さん：町内会活動もOMUSUBIの活動も両方やっていることで、地域で安心して子育てをすることができるようになりました。地域の中に見守ってくれる方々がたくさんいます。

協働のコツはありますか？

田代会長：多様な人々が自分自身のできることで町内会に参画できる仕組みにしていきたいです。先述のコミュニティ部のサポーターは、会議に参加できない方も関わっていただけます。また昨年から町内会として地域で活動する団体に資金支援をする「玉川学園地域活性応援支援金」をスタートしました。昨年度は10件の応募がありました。初めて知る団体も多く、地域で活動をしている方や想いのある方と出会えるきっかけの一つだと思っています。

金井さん：一緒に作業をする、イベントを手伝うことを通じてコミュニティを育むことが大事だと思います。毎年あの人人が豚汁を作ってくれているなあとそういったことの積み重ねです。

お互いへのメッセージ

田代会長から金井さんへ

これからの地域を背負って立つ人だと思うので頑張ってほしいです。できる限りのことは応援します。

金井さんから田代会長へ

いつも感謝しています。ちょうど私の親世代であり、地域のお父さん。とにかく元気でいてほしいです。

● 玉川学園町内会

1962年設立。玉川学園約3,600世帯、8地区・45支部・325班で構成。地域住民やコミュニティ部サポーターの力も集まり、夏祭り、ハロウィン、お餅つきなど年10回ほどのイベントを実施。クリスマスに無料配布する豚汁300食は、OMUSUBIの炊き出しセットを使用して協力実施している。



● 冒険遊び場・子ども食堂おむすび

玉川学園なかよし公園で毎月第一土曜日に開催している冒険遊び場・子ども食堂。「子どものもしわせを地域でつくる」場として、0~18歳の子どもが集つ。活動は多くの地域サポーターに支えられている。



市内には、地域に根差し、地域の暮らしを支える町内会・自治会、地区協議会といった地域組織のほかに、同じ関心事や専門性を持ったメンバーが集まり活動を進める市民活動団体など、多様な団体や組織が地域づくりに取り組んでいます。今後は、組織の枠を超えて、お互いの強みを活かして活動をすすめることがますます重要になってきます。今回は、町内会・自治会や地区協議会といった地域の組織と地域で活動する団体が互いの強みを持ち寄ってWIN-WINの活動を進めている2つの地域でインバウンドを実施し、協働を進めるためのコツをまとめました。

case study
一例 02

事務サポートを通じて、共に世代を超えた安全安心な地域を目指す

中一登代表、西行恵さん▶



町田第二地区協議会×らぶふあみ

協働することになったきっかけは？

西行さん：サポートオフィスから「地区協議会」について聞いて、自分たちの暮らす地域との関わりを深めたいので、ぜひ参加したいと思っていました。代表とは、シバヒロで行われた町田第二地区協議会のイベントでお会いしたのが初めてだったと思います。その後、らぶふあみ事務局として町田第二地区協議会に加入させていただくことになりました。

中代表：地区協議会のメンバーが固定化していた中、西行さんたちから地区協議会への関心が示されました。実際に町田第二地区として何をしていただきたいのか、らぶふあみさんが何ができるのかを話し合い、双方の考えが一致したこと、また、町田第二地区が大切にしている「安全安心」の取り組みにも共感してもらえたことが決め手となり、参加をお願いすることになりました。さらに、西行さんの人柄や活動をよく知る方からの声もあり、それも後押しとなりました。



▲「町田第二地区協議会NEWS」の作成もらぶふあみ事務局が担当。

具体的にどんな協働をしていますか？

中代表：チラシづくり、イベントの撮影、横断幕や旗作りなど、これまで役員が手分けして行ってきたことを事務局として手助けしてもらいたい大変助かっています。

西行さん：まち2フェスでは「はいはい競争」など子育て層向けの企画も考えました。らぶふあみとして町田第二地区協議会の事務局業務を担当し、製作料をいただいている。

協働してよかったことは？

西行さん：地域のありがたさに気付くきっかけになりました。知れば知る程、驚くことばかりです。みなさん色々な活動をされていて、色々なお顔がある。地域のたくさんの方に日常の安全・安心が支えられていることを実感しています。

協働するためのコツはありますか？

中代表：お願いしたいことに対して、できるかどうかを率直に言ってもらうようにしています。均子定規で決めずに気軽に話してペクトルを合わせられたらと思っています。また、活動を精査してゆとりをもって運営できるようにしていくことも意識しています。

西行さん：町内会・自治会など地域の活動を知るよう心がけています。これまでの仕事内容と違うからこそ、参加した会議の

内容は、らぶふあみ内で丁寧に共有しています。これをきっかけに町内会のお手伝いに入ったメンバーもいます。

お互いへのメッセージ

中代表から西行さんへ

気配り・目配り・心配りが基本だと思いますが、それが出来るのかららぶふあみの皆さん。子育て層が地域に関わることができるアイデアをこれからも一緒に考えてもらえた嬉しさです。

西行さんから中代表へ

中さんが地域をまとめている姿、活動の精査、決算される姿が勉強になっています。どうしたら同世代に地域の方の活動が伝わるか、発信にも取り組んでいきたいです。

● 町田第二地区協議会

2014年設立。森野、中町、旭町、本町田、藤の台1~2丁目を区域とし、21団体で構成。地域の安全安心に重点に置いて「見守り事業」を実施。地域交流イベント「まち2フェス」の運営や、地域活性化支援から「元気のええ」「チーム本町田1582」等の取り組みの支援を行っている。



● らぶふあみ事務局

2017年より任意団体として、町田ママがつくるファミリーのための応援マガジン「らぶふあみ」を制作・発行。2021年より株式会社ポートエモーションの広報宣伝部門に所属。親子向けイベントや子育て世代向け講座の講師など幅広く活動中。



サポートオフィスは地域での新しい繋がりづくりをサポートします！お気軽にご相談ください。

協働のコツ

コツ1

顔の見える関係性づくり

まずはイベントを手伝うなど一緒に作業をして、顔見知りになることがスタート。信頼関係も一歩ずつ積み上げていくことが大切です。新しい人とつながることができる企画を実施するのも重要です。



コツ2

相談は具体的に、率直に

困っていること、助けてもらいたいことを具体的に相談。相手側もできること、できないことを率直に伝えることで無理のない協力関係を築けます。



コツ3

リスクを大切に

世代やライフスタイルの違いを尊重し合い、お互いの活動を知ることでリスクが生まれます。互いをリスクとして意見を出し合うことで、新しい視点やアイデアが生まれ、活動の幅が広がります。